初めてgirl’s nightに参加させていただいて

JCHO東京新宿メディカルセンター

放射線科　内海暢子

東京新宿メディカルセンター　放射線科　内海暢子と申します。

卒後6年目で、今年、放射線科専門医試験を受験する学年となりました。

JAWROの存在は以前より存じておりましたが、ご縁により先月入会し、早速、4月16日のgirl’s nightに参加させていただきました。

若手の参加者代表ということでご指名いただきましたので、初参加の感想を一言述べさせていただきます。

教育講演などで壇上でお話しされている先生方が多数いらっしゃる会でありとても緊張していましたが、幹事をされた先生方によるちょっとしたイベントやお酒の力もあって、和やかな雰囲気の中、楽しい時間を過ごさせていただきました。

会では、漫然的な人手不足に対する訴えなど仕事の話題も聞かれましたが、日常私があまり耳にすることのないざっくばらんなお話もたくさん聞くことができました。家事と仕事の両立、子育てのこと、美の秘訣、ご主人のさりげない自慢話など、このような話題は私にとって新鮮に感じられました。と言いますのも、特に今まで意識することなく過ごしてまいりましたが、改めて振り返ってみると私は女性の放射線治療専門医の先生と同じ職場で働いたことが無かったからなのだと思います。

知識や経験では絶対に追いつくことのできない先生方ですが、activityさえも私は勝てないのではなかろうかと思うほど、先生方は皆さん、若くてお元気です。

「10年後には定年しています」と言われてもにわかには信じがたい先生方、「大変、人手がほしい、でも一人で30人照射しています」とパワフルに語られる先生、「子供が4人いますが」と当たり前のように話される先生。そんな先生方を目の当たりにできたことはとても刺激的でした。

放射線治療医は、市中病院においては1つの病院に1人もしくは2人であることも珍しくないですから、同じ職場に女性の放射線治療医が2人以上いる環境が多くないのも当然です。JAWROのような医局や病院を超えた先生方とのつながりを持てる機会は、とても貴重だと感じました。

会にお誘いいただいた先生、幹事をしていただいた先生、お話していただいた先生、本当にありがとうございました。